

# 第27回佐賀県総合教育会議

## <意見交換>

- 1 佐賀県教育大綱 Vol.3（案）について
- 2 子どもの社会体験について

Ⅰ 佐賀県教育大綱 Vol.3 (案) について

【別 紙】

## 2 子どもの社会体験について

# 学校外の活動に関するご意見

---

- ・ 学校がきつく規制し過ぎて高校までいろんな経験をしていない。
- ・ 学校教育で守られていたところから、急に社会に出ることになる。
- ・ 親が送り迎えして、バスや電車で移動する経験をしていない。
- ・ 多くの小学校で小学校区から出ることができない決まりがある。
- ・ 学校で一定の制約をつけてしまうとなかなか外せない。
- ・ 子どもの行動を制限することで、自分で学ぶことをやめさせている。

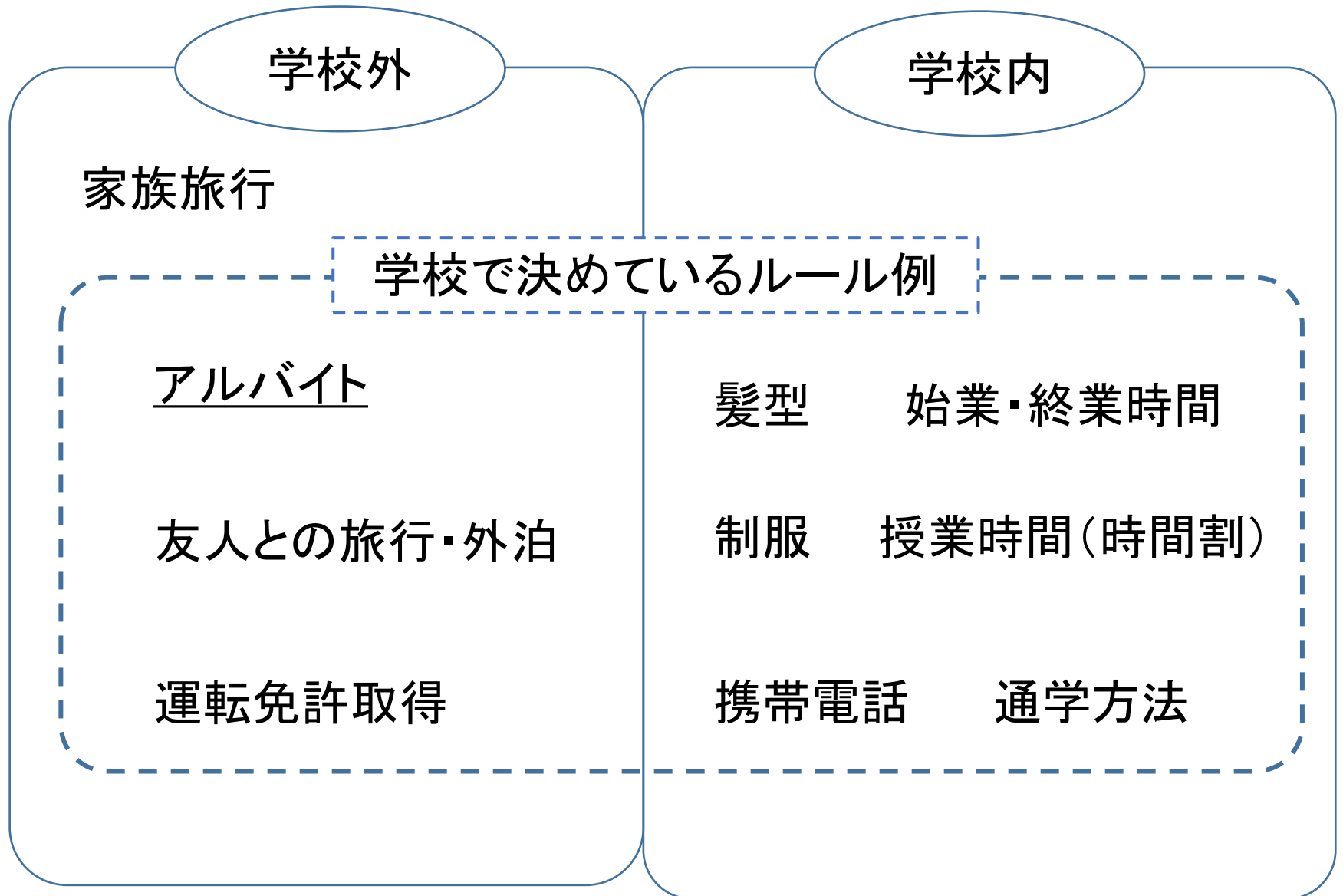
※過去の佐賀県総合教育会議  
におけるご意見

生徒が社会体験を積む機会を逃しているのではないか？



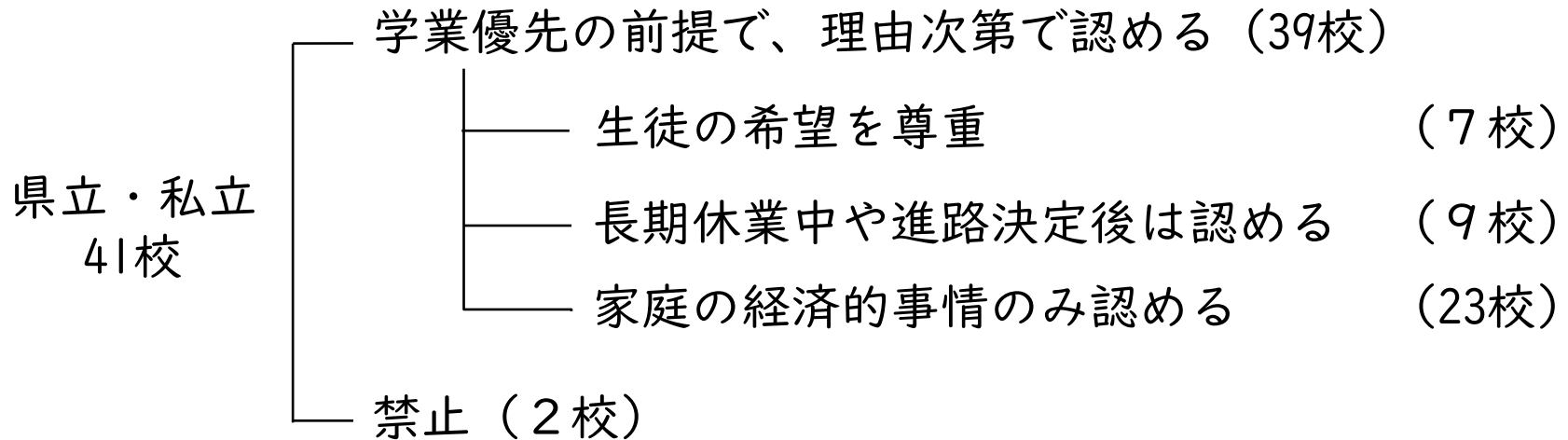
社会体験の一つとして  
高校生のアルバイトについて、意見交換したい

# 学校外の活動についても高校でルールが決められている



# 県内高校（41校）のアルバイトの取扱い

## アルバイトを認める基準は学校により濃淡あり



## アルバイトの事例

### ○ 地域と連携して行う事例

- ・ 介護福祉施設、農作業、工場（介護系学科、農業系学科、工業系学科の高校）
- ・ 牡蠣焼き小屋、陶器市、旅館など地域特性のあるもの

### ○ その他の事例

- ・ コンビニ、ファミリーレストラン、ファストフード

### アルバイトを原則として認めていない理由

- ・ 勉学や部活などの学校生活に専念すべき
- ・ お金が手に入ることで、不良行為につながる
- ・ 寮生が多い

# アルバイトの実施状況（1/2）

令和5年11月 県調査時点

## 学校数別

| アルバイト実施の<br>難しさ | アルバイトを認める基準     | 普通系 | 実業系 | 計   |
|-----------------|-----------------|-----|-----|-----|
| ↓<br>難          | 生徒の希望を尊重        | 1校  | 6校  | 7校  |
|                 | 長期休業中や進路決定後は認める | 2校  | 7校  | 9校  |
|                 | 家庭の経済的事情のみ認める   | 17校 | 6校  | 23校 |
|                 | 禁止              | 2校  | -   | 2校  |
|                 | 計               | 22校 | 19校 | 41校 |

## 生徒数別

| アルバイト実施の<br>難しさ | アルバイトを認める基準     | 普通系     | 実業系    | 計      |
|-----------------|-----------------|---------|--------|--------|
| ↓<br>難          | 生徒の希望を尊重        | 4人      | 412人   | 416人   |
|                 | 長期休業中や進路決定後は認める | 122人    | 419人   | 541人   |
|                 | 家庭の経済的事情のみ認める   | 75人     | 230人   | 305人   |
|                 | 禁止              | 0人      | -      | 0人     |
|                 | 計               | 201人    | 1,061人 | 1,262人 |
|                 | 生徒計             | 12,386人 | 9,343人 |        |

高校生でアルバイトしている生徒は全体の5.8%

|               | 1年生    | 2年生    | 3年生    | 全体      |
|---------------|--------|--------|--------|---------|
| 生徒数           | 7,509人 | 7,059人 | 7,161人 | 21,729人 |
| アルバイトをしている生徒数 | 233人   | 326人   | 519人   | 1,262人  |
| 実施率           | 3.1%   | 4.6%   | 7.2%   | 5.8%    |

※学校生活に順応するため1年次は禁止の学校あり

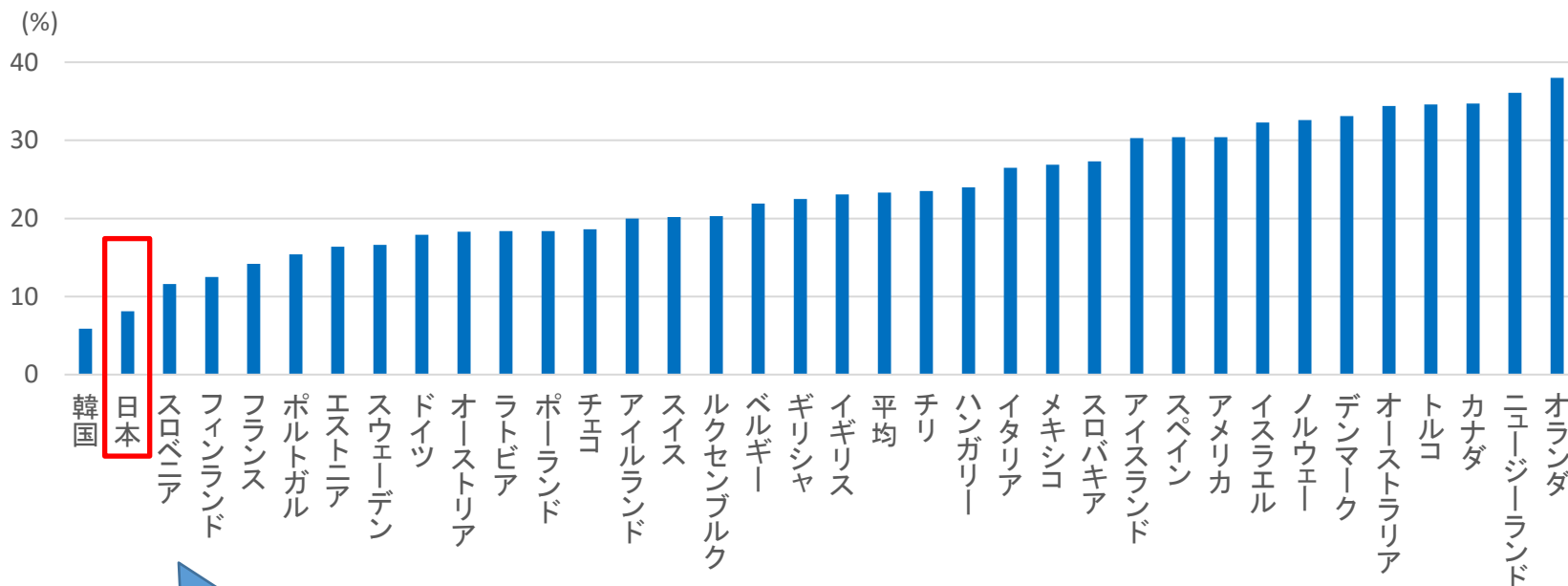
※進路決定後は可の学校あり

※「アルバイトをしている生徒数」の全体には、学年が不明の数を含む



## 參考資料

# OECD加盟国の15歳生徒のアルバイト実施率



日本は他国より  
実施率が低い

日本 8.1%  
OECD平均 23.3%

オランダ 38.0%  
アメリカ 30.4%  
スペイン 30.4%  
イギリス 23.1%  
ドイツ 17.9%  
フィンランド 12.5%

資料 PISA2015 III students' well-being(2016年12月公表)  
調査対象 日本では高等学校, 中等教育学校後期課程, 高等専門学校の1年生  
(調査段階で15歳3か月以上16歳2か月以下の生徒)  
設問 調査の前日、始業前または放課後に有給で労働したか

# 高校生のアルバイトの実態について(1/2)

- アルバイトをしていない理由 (単一回答)
  - 1位 学校で禁止されている 44.4%
  - 2位 学校生活との両立が難しい 19.4%
  - 3位 プライベートを大事にしたい 10.7%
  
- アルバイトの目的 (単一回答)
  - 1位 趣味をするため 30.6%
  - 2位 貯金のため 26.7%
  - 3位 自分の生活費のため 7.7%
  - 4位 社会経験を積むため 7.0%
  
- アルバイトを始める際に不安なこと (非就業者対象・複数回答)
  - 1位 学業と両立できるか 60.4%
  - 2位 職場の人間関係 50.4%
  - 3位 シフトの融通がきくか 49.3%

# 高校生のアルバイトの実態について(2/2)

## ○ やってみたい職種(複数回答)

- 1位 接客・調理 32.4%
- 2位 イベント 29.0%
- 3位 販売 22.8%

## ○ 就職活動を意識して何を重視して職種を選んだか(複数回答)

- 1位 正しい言葉遣いができるようになる 43.9%
- 2位 将来の仕事や職業に役立つような経験をする 34.6%
- 3位 同僚と上手にコミュニケーションを取れるようになる 31.0%
- 4位 様々な世代の人と関わる 28.7%